

「中部建設業女性就業者懇談会」

～建設業で活躍するハンサムウーマンの集い～

平成22年7月

国土交通省中部地方整備局建設産業課

中部地方建設業女性就業者懇談会 ～建設業で活躍するハンサムウーマンの集い～

1. 開催主旨

少子高齢化・人口減少により、就業人口が減少するなか、企業の人材戦略における「女性の活躍推進」の重要性が高まるとともに、改正育児・介護休業法の施行（平成22年6月30日）等、「働く女性」の就業環境の整備も促進されているところであり、今後、建設業においても「女性の活躍推進」の重要性が高まっていくことが予想されます。

本懇談会は、中部地方の建設業界において、仕事に対する強い意識と意欲を持ちながら、様々な立場で活躍されている女性就業者（ハンサムウーマン）の方々にお集まりいただき、それぞれの仕事の魅力・課題等について話し合ってもらい、その内容を発信することを通じて、中部地方における建設業の女性就業者の方々の交流のきっかけにさせていただくとともに、建設企業の経営者の方々に経営力強化の手法の一つとして「女性の活躍推進」をご検討いただくための参考としていただくことを目的として開催いたしました。

2. 日時等

(1) 日 時 平成22年7月6日（火）13:30～15:30

(2) 場 所 愛知県産業貿易館西館 中部地方整備局8階会議室
（名古屋市中区丸の内3-1-6）

3. 懇談会出席者

氏 名	会 社 名	役職・担当職務等	業 種
秋山 しのぶ	ダイスイ設備株式会社	取締役 経理総務部 部長	＜水道設備工事業＞
飯野 和子	乃一塗装工業株式会社	営業係長	＜塗装工事業＞
勝又 ひとみ	有限会社カツマタ	代表取締役	＜揚重機業＞
壁谷 侑季	小原建設株式会社	工事部（技術職）	＜総合建設業＞
瀧 淳子	弥富建設株式会社	事務職兼技術職	＜総合建設業＞
中澤 さとみ	ナガ工塗装株式会社	営業部長	＜塗装工事業＞
西雪 美樹	株式会社奥村組	営業部 主任（技術職）	＜総合建設業＞
林 奈緒子	株式会社ディビーエス	技能職	＜鉄筋工事業＞
藤森 絵美	矢作建設工業株式会社	設計部 副主（技術職）	＜総合建設業＞
兵頭 直美	ナガ工塗装株式会社	総務部長	＜塗装工事業＞
渡邊 裕子	株式会社横井業務店	技能職	＜左官工事業＞
中崎 ふじの	中部地方整備局	建政部 住宅整備課長	
滝 麻友	株式会社建通新聞社	報道部 記者	

※ 五十音順

中部地方建設業女性就業者懇談会

～建設業で活躍するハンサムウーマンの集い～

開催日 平成22年7月6日

開催場所 愛知県産業貿易館西館

中部地方整備局8F会議室

【建設新聞：滝氏】

本日の司会をさせていただきます株式会社建通新聞社の滝麻友と申します。私は現在入社3年目で当社の女性社員は少なく、外勤採用の女性社員の先輩がいない状況ですので、今日は皆さんからいろいろな意見を伺いたいと思っていますので、よろしくお願いします。

それでは、氏名、会社名、今の仕事を選んだきっかけ、感じているやりがいなどを順番に話したいと思います。

【中部地方整備局：中崎氏】



中崎ふじのと申します。中部地方整備局建政部で住宅整備課長をしております。

もともと小さい頃から美術、数学が好きで、大学で建築を学びました。大学に入ってから、大学の勉強の傍ら、NPOの方々や市民活動をしている方々とまちづくり活動をやっております、両方を活かせると思い、大学院で都市計画の研究室の方に進みました。就職するにあたって、

まちづくり行政に関わっていきたくて、国土交通省に入省致しました。

はじめは東京で、中心市街地活性化やエリアマネジメントといった、まちづくりを中心とした仕事をしていました。現在は住宅整備課長ということで住宅・建築に関わることを色々やっています。建築分野出身で普段はデスクワークが中心なので、今日は建設業界で働く女性ということでぴったりではないかもしれませんが、技術職の行政職員ということで参加させていただきました。短い時間ではありますが、よろしくお願いします。。

【乃一塗装：飯野氏】

乃一塗装工業株式会社の飯野と申します。

入社したきっかけは、子育てが終わり、下の子供が中学に入る時に声をかけられまして、初めは留守番、電話番号程度の仕事でしたが、何年かするうちに、徐々に営業の方に移っていきました。今は普通の男性と同じで、一つの仕事を受けてやりこなすという仕事しております。

仕事のやりがいというと、今は老後のことを考えて田舎の



方に住まいを構えているものですから、今まで自分がやってきた色々な町村の建物や学校などの塗装したモノが今現在もその状態で残っているのを見るのが生き甲斐というか、楽しみになっています。

好きで仕事をしているので、苦勞していることは全くありません。今の仕事が割と自分にあっていかもしれませんが、勿論、会社の方も理解もありますし、直属の上司もしっかりと理解していただいていますので、家庭のことでいろいろと用事がありましても、家庭を優先に動かしていただいていますので、自分で仕事の配分を決めながら進められることが、仕事がしやすい状況になっています。

男性、女性を感じずに仕事を行っていますが、現場にいて女性社員がめずらしいので、顔、名前を早く覚えられるという利点がありました。本日は、よろしくお願いします。

【小原建設：壁谷氏】



小原建設株式会社の壁谷と申します。よろしくお願いします。私は入社して3年目で、普段は現場に出て仕事をしていますが、現場の管理という点では携わっているかわかりません。どちらかという雑用をしている方が多い気がします。

入社したきっかけは、小さいころから「家」というものに興味があって、小さいころからテレビでお城の特集が放映されていると、興味を持って見ていましたが、高校を卒業する頃になって、まだ、進みたい道のようなものは決まっていなかったのですが、「家」に興味があったので大学の建築科に入ったのがきっかけです。

大学に入り、最初は設計の方に興味がありましたが、授業を受けていくうちに、設計よりもやはり「建物」の方に行きたいという考えになり、3年生の時に施工の授業があり、そこからインターンシップで小原建設に行かせてもらい、良い会社でしたので、入社を希望し、入社させていただきました。

以前、中部地方整備局からインタビューを受けさせていただきましたが、ちょうど、その時は入社2年目で、あまり苦勞を感じたことはありませんでした。最近は、自分の中でも模索している状況で、悩んだりしていることもあり、今日はこの場で皆さんの話を聞かせていただいで参考にしたいので、よろしくお願いします。

【ディビーエス：林氏】

鉄筋業の株式会社ディビーエスに勤めています林奈緒子です。よろしくお願いします。

入社したきっかけは、小さい頃から外の仕事が好きでやってみたいと思っていて、女子校に通っていたときに、学校に今の会社から求人があり、入社することになりました。

経験した仕事は、建築、土木すべて経験しました。現在や



っている仕事はマンション5階の高いところの仕事をしています。今日は、よろしくお願いいたしますします。

【奥村組：西雪氏】



皆さん、こんにちは。初めまして私は株式会社奥村組の西雪と申します。入社6年になります。

入社したきっかけは、元々高校生の頃からモノづくりという仕事に憧れていて、大学では土木のコースを専攻しまして、土木の勉強をして、大学3年生になり、就職活動をしようという時期に、何が良いかいろいろ先生や先輩方に聞いたところ、”土木の現場はすばらしい、モノがどんどん

出ていくところを目の当たりにできるということは、すばらしい”ということをいろいろ言われて、現場っていいんだろうなと魅力を感じて、ゼネコンに入社しました。

入社してからは、現場で4年半やってきました。4年半の間に東京都の下水道のシールド工事で半年、首都高の開削工事で2年、名高速4号線の下部工の工事を2年間やってきました。

去年の11月から営業に転職しまして、元々営業にも興味がありまして、4年半仕事をやってきた中で、ゼネコンという会社は現場だけではなく、いろいろ組織があって仕事をしていくことを感じていて、営業は女性ということを活かせるのではないかという期待もあったり、営業職として工事を受注してから全部が始まるので、その始まりに立ちたいということもあって、営業職を希望して、今、営業職として半年余りですが、官庁、民間共に工事を受注するためにやっているところです。

今日は、私の年齢的には、皆さんのちょうど真ん中くらいかなと思います。入社6年目なので自分よりも若い方もいらっしゃるし、大先輩もいらっしゃるので、いろいろな話を聞けたらと思い、楽しみに来ました。よろしくお願いします。

【ダイスイ設備：秋山氏】

こんにちは、私はダイスイ設備株式会社に勤務しております秋山と申します。よろしくお願い致します。

入社するきっかけは、前職で営業職をしていた時、以前からの知り合いである今の社長から、”経理の方が入院されるので、ちょっとお手伝いをしてほしい”と声をかけていただきまして、現職の仕事場に手伝いに行っていました。そこで業務の方の改善を提案したところ、社長の方から”提案してくれる人が必要なんだ”ということで、”是非うちに来てくれないか”と声をかけていただいたのがきっかけです。



経験した仕事は、全然現在と関係がないのですが、美容部員を2年、一般事務を3年、保険の外交員を12年ということで、ほとんど事務経験がない状況でした。経理・総務ということで入社したので、自分に何ができるのか、何もわかっていない自分が本当に入っているのかと

思ったのですが、社長の方は” 興味や追求心を持って仕事に携われば、必ず身になる” といっ
ていただき、入社させていただきました。

今携わっている仕事としては、経理・総務全般と社内のよき環境づくりということで、コミ
ュニケーションが悪ければ、社員に声をかけたり、みんなの健康状態とか、事故とかが多けれ
ば指導したり、会社全体のことを携わっています。以上です。よろしくお願い致します。

【カツマタ：勝又氏】



三重の方で移動式クレーンの有限会社カツマタをやっ
ております勝又と申します。よろしくお願い致します。一応、
会社を興してから個人を含めて、今年で15年になります。

初めは子供の幼稚園の同級生のお母さんの家が、近所で土
木会社を経営しており、その電話番号に誘われまして、下
の子供をつれて土木会社に電話番号として行ったのがきっか
けです。

たまたま、その会社がハウスメーカーの仕事をする関係で、移動式クレーンがあったのです
が、そのクレーンを部門としてやってみようかということになり、私がクレーンを任せられま
して、まさか、自分がクレーンをするとは思わなかったのですが、たまたま、いろいろな所との
取引をするようになりまして、大きなクレーン屋さんの下請みたいなことをみんなに薦められ
て、やることになりました。自分も事務員をしている時に、ちょっと免許も取ってみようと思
い、土建屋さんの土場で練習しながら免許を取りましたので、クレーンの方が忙しくなると、
乗って行って手伝いをしたことがきっかけです。

今は完全に自分の会社の仕事だけしかしておりませんが、伊勢市と四日市市で会社をやっ
ていて、クレーンは現在23台くらいしかいないんですけど、もう最近はクレーンに全然乗って
いません。運転手を雇って運転手に行ってもらっています。仕事の的には今は営業だけしかして
おりませんので、自分で仕事を取ってきてまして、運転手に仕事を行かせるという感じなんすけ
ど、三重県の田舎の方では、運転手を確保するには難しくて、愛知県などは次から次へと会社
に入社されるらしいですが、三重県のクレーンの運転手人口は少ないのではないかなと思うほど、
運転手は見つかりません。ただ、うちの会社はこういう不景気の時ですので、新たに運転手を
たくさん入れてということはありませので、機械の数の方が運転手の数よりもはるかに超え
ております。でも、うちに入った運転手はやめないのので定着率がいいと思います。

皆さんはあまり日焼けされていなかったもので、現場の方ではないのかなと思っていたん
ですが、先程から話を聞いていると現場の方もみえると思うので、いろいろ女性ということで苦
労されていると思いますが、私も現場に出ていましたので、苦労も少々わかると思いますので、
今日は皆さんのお話を聞いてプラスになるように、頑張りたいと思います。よろしくお願い
致します。

【弥富建設：瀧氏】



皆さんはじめまして、瀧淳子と申します。作業着を着ていますが、実は内勤です。社長にアピールしてくるようになわれ、今日これを着て臨みたいと思います。

入社したきっかけですが、前職は贈答品の会社の事務をしておりまして、2年程勤めていましたが、倒産してしまいまして、家でぶらっとしているところを、今の会社に勤めている方が母と友人で、車を運転できる人を探しているということで、ただ、運転免許を持っているということで入社をしました。ただし、4月に新入社員がくるまでの1月～3月の間ということでした。

今の会社は小さいので、現場監督がすべての書類の整理を行っていましたが、現場も出て、書類もということになると、帰りも遅くなり、時間もかかるということで、少しずつ自分がその書類整理を手伝うようになり、やっているうちに、仕事が楽しくなり、自分が現場に出なくても、なにか自分も一緒に現場に関わったんだという達成感みたいなものがあり、建設業って楽しいなと思い、今の社長は当時社長ではなかったのですが、会社に頼み込んだら、是非入ってくれと言われまして入社しました。

入社13年目になりますが、これまで現場監督さん達の補助的な仕事をやってきました。仕事のやりがいというと現場に出てはいませんが「達成感」だと思います。私には娘が2人いまして、ここは私が関わったところなんだという話をすると、すごく嬉しがって、この仕事はやりがいがあるといつも感じます。工事の検査にも毎回立ち会わせて頂きまして、指摘されたことを筆記しているうちに、最初のうちはあまりにも言葉が分からなくて、どうしたらいいのかと思ったときに、社長から”ここまで書類を整えたりしていれば、2級土木施工管理技士の資格が取れるのではないかと”という話をして下さいまして、チャレンジをしたら合格しまして、もしかしたら1級も合格できるのではないかと話になりまして、その時は産休中でしたが、社長にお願いして勉強して受験させて頂き、合格して、今は筆記をしていても検査官の方々が何を言っているのか理解できるようになりました。

会社はほぼ男性ばかりですが、家庭を持っている方が多いので、コミュニケーションといわれても、子供の話をするので、男女の差別は感じられないので、そういう雰囲気をつくってくれた会社や社長を有り難く思っています。私は、結婚して、出産して、でも雇って頂いている会社に対して、この先もいろいろ、自分ができることはなんでもチャレンジしていきたいと思っています。本日は、よろしくお願いします。

【横井業務店：渡邊氏】

はじめまして、株式会社横井業務店の渡邊裕子と申します。入社7年目で左官業をやっています。

入社したきっかけは、高校が工業高校で建築科だったんですが、正直それまでは左官業がどういうものかわからなかったのですが、求人票を眺めているときに高校の先生か



ら、先輩が今の会社に何人か入社していることを聞いて、自分でもできるんじゃないかと思い入社しました。実際に入社してみたら、先輩方が何年も仕事をしていくなかで、皆さんに理解される状況をつくってくれたということもあり、親方たちも女性が現場で働くことに対して、理解があるので、今まで続けてこられたと思います。

経験した仕事は、うちの会社はゼネコンさんから受けるマンションやビルの下請工事で、具体的には吹き付けや壁塗りになります。最近、あまりやらない漆喰もやらせてもらっており、度々あるものでないので、これを機会にしっかりと覚えて次に活かしていきたいと思っています。今現在、大学の学生寮でも漆喰の仕事をさせてもらっていますので、良かったなと思っています。本日は、よろしくお願いします。

【矢作建設工業：藤森】



皆さんこんにちは、矢作建設工業株式会社の藤森と申します。私は入社5年目になります。入社したきっかけは、高校3年まではあまり進路について考えていなかったのですが、「建物」というものが好きで、建物関係の番組をみたり、広告の家の図面を見るのが好きだったので、いいなあとは思っていたのですが、実は私は文系で数字が得意ではなく、建設業は男性の仕事というイメージがあり、本当に自分ができるのかという気持ちはありましたが、別の興味というかアメリカの方に留学することになりまして、先入観にとらわれずに、アメリカで建築を学びました。

日本に帰国して、就職するにあたり色々な会社を受けましたが、まず、留学して帰ってきたということ、学校のことを知られていないということ、女性ということで就職先を探すのに苦労しました。今の会社は逆に変わった学歴や経歴を重視していただき、入社しました。

入社して3年間はオフィスビルの設計を担当していました。昨年、土木の方に異動になりまして、土木といっても道路等の官公庁関係ではなく、宅地造成といった民間の開発関係の設計や申請の仕事をやっています。まだ、土木のことは、あまり分からなくて、一から勉強しているところですが、今は徐々に土木の知識が増えていくことが実感でき、仕事にやりがいを感じています。今日はよろしくお願いします。

【ナガ工塗装：兵頭氏】

はじめまして、西尾市にありますナガ工塗装株式会社の兵藤直美と申します。入社して15年目になります。今現在は元請工事の営業を担当しております。

入社したきっかけは、事務員の募集があり、社長の考えや職人さんの動きを見て、是非とも営業の仕事に少しでも自分が力になればいいなという夢を抱きまして、15年前にこの職場に入社しました。



営業職もそうですが、建設業というのは、私にとって初めての仕事であり、結婚する前の仕

事はまったく関係のない総務から秘書に至るまでというところの畑違いの仕事をしておりまして、正直、ナガエ塗装に入社した時は、建物の図面も見ることには出来ず、私に勤まるかという不安はありましたが、やればやるほど、仕事が深い、面白いという気持ちが芽生えてきて、かれこれしているうちに15年が経ちました。

今も勉強しながら、自分の夢や希望を持ち、頑張っていこうと思っている矢先に今回の懇談会のお誘いがあり、皆さんのお話を聞いて、また今後、私の身になればと思っています。よろしくお願いします。

【ナガエ塗装：中澤氏】



同じくナガエ塗装株式会社からきました中澤さとみと申します。

私は高校を卒業して入社した会社が地元の建設会社でした。そこで出産までの約5年間、経理の仕事をさせていただきました。このナガエ塗装に入社するきっかけとしては、ちょうど下の子供が保育園に入る頃、以前働いていた会社の協力会社であったナガエ塗装の社長から、事務の方を手伝ってくれないかと誘いがありまして、事務職として今の会社に入社しました。以前も建設会社で働いており、経理の仕事をしていた経験があり、見積書等を作成する中で、図面をみるのが好きというよりは、間取りをみるのが好きだったので、事務の仕事と積算の仕事もある程度受け止めて、仕事をさせて頂いておりました。小さな会社ですので、書類半分、現場半分というようになり、現場の方も担当するようになりました。

今の仕事内容としては、総務・経理全般と現場管理の両方の仕事をしています。双方の仕事を比べてみると、総務・経理という仕事はエンドレスの仕事で、毎日終わることなく、評価もそれなりにあるかもしれませんが、現場の仕事は一つ終わるとそれなりの評価と達成感があります。特に官公庁の仕事は、点数もつけられますので、それがダイレクトに自分に跳ね返ってきて、次の仕事につながりますので、楽しみでもあります。また、皆さんのお話をお聞きしながら、自分の仕事の確認をしたいと思いますので、どうぞ、よろしくお願い致します。



【建通新聞社：滝氏】

本日はこのように女性に集まって頂いておりますが、建設業界は男性の就業者が圧倒的に多い業界です。最近では女性の就業者も増えつつあるようですが、まだまだ数は少ないのが現状です。そのような極端に女性の少ない環境で働くには、様々な問題や悩みを抱えていることと思います。実際に建設業界で働くみなさんに具体的にどのような課題を抱え、対処しているのか、ご意見をお聞きしたいと思います。まずは西雪さんお願いします

【奥村組：西雪氏】



まず、私が感じていることは大きく二つあります。一つは先輩がなかなかいない。働く女性のモデルが、まだ建設業では少なく、自分の会社でもすごく少ないですし、建設業自体をみてもまだまだ少なく、なかなか自分が今後、どうなっていくのだろうという「絵」が描きにくいといくことが一つあると思います。だから逆に、新入社員で女性が入ってきた場合はなるべく話を聞くように心がけています

が、先輩は少ないということは一つの悩みの要素です。

もう一つは男性側の意識の問題です。私の場合は運が良くて、3つの現場に仕事をさせていただいたのですが、3現場とも良い職員、職人さんで、そんなにはなかったのですが、私の知っている女性でゼネコンに入社して、1番最初に配属になった現場の所長さんは女性を大切に扱わなければならない意識を持っている人で、雨降ったら現場でなくもいいよというような感じで、女性を守らなきゃという意識の持ち主であったのですが、ただ自分は技術職として、総合職として入社しているのであって、みんなと同等に扱ってほしいという気持ちがあったのですが、いろいろな方がいらっしゃるので、一概には言えないのですが、中には対等に扱ってくれなくて、悩んでいる女性のもいるので、そういう問題もあると感じています。

【建通新聞社：滝氏】

藤森さんはアメリカ留学を経験されていますが、男女の働き方で日米の違いを感じますか。

【矢作建設工業：藤森氏】



むずかしい質問だと思いますが、アメリカでは就職はしていなかったのですが、企業の実態はよくわからないことありますが、アメリカでは残業というものが無いということと、家庭第一があると思うので、男女平等に育児休暇を取ることもあり、大企業になると会社に託児所があることが当たり前で、皆さん、普通に利用しています。

【建通新聞社：滝氏】

女性が建設業界で働くにはさまざまな課題があるかと思います。どんなことに困ったり、戸惑ったりしているのかをお聞きしたいと思います。林さんは、外に出て働くことを希望して入

社されたということですが、実際に現場で働かれていて、苦労したことはありますか。

【ディビーエス：林氏】

現場に出て仕事をする事で困ったことは全然ないです。好きで入った仕事ですし、中学の時にいじめにあって、女性だけの仕事はいやだったとっていて、高校は女子校に入学しましたが、いやでいやでしようがなく、変えようと思って入社したので、男性の職場だからいやだというのは全然ありません。



【建通新聞社：滝氏】

渡邊さんにお聞きしたいと思います。職場で悩みなどを相談できる相手はいますか。

【横井業務店：渡邊氏】



たいした悩みはないですが、先程、女性が理解される状況を先輩たちがつくってくれたという話をしましたが、そういう先輩たちがいなくなってしまうと、もう、年上で現場に出ている女性がいらっやらないので、女性同士の相談ができないということがあります。仕事の内容やわからないことに関しては、聞けば教えてくれるという感じではありますが、重たい話を相談できる相手がいるかということ

正直いらないと思いますが、そこまで悩んでいないので大丈夫かなと思います。（笑い）

【建通新聞社：滝氏】

それでは、兵頭さんにお聞きしたいと思います。今まで15年間働いてきた中で、困ったりした経験があれば、教えて下さい。

【ナガ工塗装：兵頭氏】

困ったというより、一番ショックだったことは、お客様から第一声に”えっ、女の人 came の”という言われ方に対しては、自分の中ではわかっていたものの、悔しさが正直ありました。だからといって男性社員を連れていってお客様の対応をするということは一切せずに、だめだったらだめだと自分を押し通していこうという道を選んでやっています。スキルのなさもありますが、勉強できることは勉強して、女性ならではのところも発揮し、持ち続けていこうとしています。15年経った今でも”女の人の”と言われることもあります。



【建通新聞社：滝氏】

中澤さんは、同僚、取引先の方とコミュニケーションをとる中で、悩まれたことはありますか

か。

【ナガエ塗装：中澤氏】

私には女性だからといって困ったことは特にありませんでした。逆に女性だから仕方がないこともあるので、変なプライドは持たずに、わからないことは教えて下さいと、ただいつまでもわからないのではなく、教えて頂いたことは自分で理解して、信用してもらう形をとっています。

【建通新聞社 滝氏】

飯野さんにお伺いしますが、これまで長く働き続けてこられたということですが、ここまでスキルアップしてこられた過程で、苦労したことがあれば教えていただけますか。

【乃一塗装工業 飯野氏】



私は勤続26年になりますが、ごく最近、町村の仕事をさせて頂いた折に、メーカー指定の材料を使用しなければいけなかった時、自分と町村の女性職員がメーカーの人から馬鹿にしているような対応を受けたことがあります。26年間仕事をしていった中ではこういったことはあまりないですが、女性だからとか男性だからというのではなく、それはその人の性格だと思います。

【建通新聞社 滝氏】

中崎さんにお伺いします。仕事の難しさ、大変さは男女に関係なく、あると思いますが、男女の違いからくる難しさを感じたことがありますか。

【中部地方整備局：中崎氏】

公務員は割と女性が多い職場でもありまして、私の前任も女性ですし、先輩方が切り開いた道がありますので、良いところは参考にしています。でも、女性だからといって必ずしも女性の味方ではないということもありますので、男性か女性かはあまり関係ないと思います。良いところ取りというか、男性の良いところは取る、女性の見習いたいところも取るという形で今までやってきました。



あと、男性だから女性だからというよりは、行政、特に国の機関は、若いうちから、会社の上の方とやりとりをしなければならないのですが、そもそも若いお姉ちゃんがなぜここに出てくるんだろう、という雰囲気を感じたことはあります。それは男女の差なのか、若いことがいけないのか、それはよく分かりませんが、そういったことはありました。あと、夜中までを仕事をしていた時は、男性との体力差を感じたことがあります。

【建通新聞社：滝氏】

勝又さんにお伺いします。最初は事務の補助として建設会社に入社され、クレーンの資格を取得し、最終的には独立されたということですが、どうして現場に出ようと思ったのか、もう一度お聞かせ願いますか。

【カツマタ：勝又氏】

どうして現場にというか、自分で配車をしているときに、大安の日とかそういうときに、クレーンが足らなくなりまして、自分のいたところの土建屋さんの仕事だったら、少々下手でも文句を言われずにできますし、練習がてらということもあり、外で機械を動かすことが面白くて、現場に出るようになりました。

外の仕事に興味があったことと、現場へ道具などを運んだりして顔を知られていたということもあり、今度の現場は簡単にできるからやってくれないかという誘いもありまして、徐々に現場に出るようになりました。ただ、その間に電話を受けたりしなければいけなく、その頃は今のよう便利な電話もなかったので、イヤホンで電話をうけ、クレーンを乗り、帰ったらまた電話を受けたり、事務をやったりしていました。それほど、苦痛ということはありませんでした。

【建通新聞社 滝氏】

秋山さんにお伺いしますが、男性社会の中でうまくコミュニケーションをとるコツなどがあったら、これまでの経験から助言をいただきたいのですが。

【ダイスイ設備 秋山氏】



ちょうど今、会社でもコミュニケーションとは何かという取組を行っていきまして、察する環境を築くことがコミュニケーションにとって大変重要であり、一方通行では絶対コミュニケーションは成り立たず、男性、女性に関係なく必要なスキルであると思います。

男性だからヘラヘラしろとか、女性側からヘラヘラするとかではなく、やっぱり気持ちよく元気よく挨拶をするという基礎、基本の徹底、やはり会社内でできなければ、現場でもできないということで、今、会社内で挨拶投票を行ったりしています。

相手の立場からするとどういふ返事が返ってきたらいいですかというと、元気よくおはようございますというのがいいか、小さい声でおはようございますがいいのか、お互いに察し合えば、気分が沈んでいれば、何かあったのかなという声かけができたり、また別のコミュニケーションに発展しますので、男女関係なく察する環境を築いていこうとしています。

【建通新聞社：滝氏】

壁谷さんは今後も現場勤務を希望されているとお伺いしましたが、一方で結婚・出産後も仕事を続けられるか不安に感じているそうですね。今、ご自身の将来像をどのように考えられていますか。

【小原建設：壁谷氏】

今3年目で悩んでいる時期で、男女平等にみてほしいというところもありますが、配慮してほしいところもあります。男性でもつらい仕事を任されることもあり、体力的にも限界を感じていることも多く、いろいろと悩んでいます。結婚というと、皆さん結婚されていて仕事をしている方が多いので、お子さんが小さいときに、どのように仕事と家庭を両立したらいいのでしょうか。



最近大学の先輩で結婚された方で、仕事を続けるつもりでいたのですが、やはり子供が小さいうちに仕事をするのはかわいそうで辞めてしまいました。確かにそのような考え方もわかるし、いろいろ考えると将来像がみえてきません。

【建通新聞社：滝氏】

西雪さんはご結婚されて、内勤に変わられたそうです。それはどうしてですか

【奥村組：西雪氏】



私は去年の11月から内勤に変わったのですが、それまでは現場で現場監督の仕事をしていて、ちょうど去年の今ぐらいの時期に結婚しようかという話になり、今年の2月に結婚しました。

ちょうど現場も竣工が12月だったので、これからどうしていこうと将来のことを考えたときに、結婚したら子供がほしいなということが頭に浮かんで、じゃあ、現場の仕事をしながら、子供ができたらどうなるかなと想像して、子供できたら来月からつわりです、再来月から安全帯をつけて高所に上れませんとかになってしまったら、現場に迷惑をかけるなと思いました。これはまずいと思って、だからといって自分が結婚するのを止めようとか、結婚しても子供をつくるのは止めようとは思いませんでした。その時の所長がいろいろと親身になって話を聞いて下さる人だったので、今後自分がどうしたらいいのか悩んでいますということを相談しました。

元々、壁谷さんと一緒に私も、現場がやりたくて入社して、3年目くらいまでは新しいことを覚えるのに一杯一杯で、結婚とか先のことは全然考えないで、これができるようになった、これができるようになったと毎日過ごしてきましたが、3年目くらいで今度どうなっていくのだろうと、少し落ち着いて将来を見据えたときに、結婚したいな、年も年だし、子供もほしいなと、そんなふうに考えるようになりました。

結婚をいざしようと思ったときに、子供はほしい、現場に迷惑もかけたくないという色々な思いがあったことと、また、一方営業に興味があり、会社としても営業部員を補充したいというところもあって、その辺のタイミングがうまく合ったので、内勤にさせていただきました。

だからといって働きながら子供を育てていくことに対して心配なこともあって、自分が子供

ができて産休をとって、戻ってくる場所があるのかとか、1年半とかの間いなくなって、復帰してまた二人目が生まれましたというようになるかもしれないし、ちゃんとした仕事に就かせてくれるのかという不安もあって、将来に対してどうなっていくのだろうというのと、申し訳ないという気持ちもあるし、不安になることは多々あります。

今日は子育てをある程度やってこられた方もおられるので、いろいろ話を聞きたいなと思っています。

【建通新聞社：滝氏】

瀧さんは、お子さんを育てながら働き続けてこられたそうですが、会社ではどのようなサポート体制があったのでしょうか

【弥富建設：瀧氏】



入社して結婚するときには会社を辞めようとかは思っていないくて、結婚して1年くらいで子供ができたときも、会社の方からは”とりあえず、産休を取ってお休みをして、是非産休後には復帰をしてほしい”と言われました。

自分で作り上げた立場ではないのですが、”会社にとって必要な人材だから子供を産んだから辞めるとか考えないで、子供を育てながら勤められるようにサポートするから”ということで、まず保育所にいれるときに相談にのっていただき、会社にいる女性の方がほぼ育児を経験している方なので、そういう悩みも相談できる状況であったのと、社長は”家族あつての会社”だという考え方なので、”もし子供が生まれても会社につれてきてもいいぞ”といってくれたので、不安だったことが不安ではなくなって、家族のバックアップと会社のバックアップがあつて自分がいると感じています。

去年の夏に新型インフルエンザが流行ったときに、弥富市の小学校もかなりの打撃を受けて、学級閉鎖がかなりありました。その時は自分の子供は元気なのに自分は休まないといけない状況だったので会社に相談したら、”会社の2階を託児所として使用して勉強してもかまわないから、子供を連れてきて仕事をして下さい”ということで、実際に子供を連れて仕事に行っていました。また、長期の夏休みとかでも託児所として使用できる体制を会社がつくってくれています。今はないのですが、以前、当社で働いていて、辞められた方に保育士の免許を持っている人がいまして、その方を呼んで仕事中は見てもらえるようにしていただいていたので、去年は夏休みと新型インフルエンザが流行ったときには会社に子供を連れていきました。【※1】

【建通新聞社：滝氏】

秋山さんは、女性の就業者が多い会社の経営者をしていらっしゃるということですが、女性が働きやすい環境を整えるために、どのような取り組みをしていらっしゃるのでしょうか。

【ダイスイ設備：秋山氏】

今お話しに挙げたように、お子さんが小さいとなると学校の授業参観があったり、学校の行事があったりということで、行こうと思うと現状では会社を休んでいくというようになりがちだと思います。しかし、学校に行く時間は1時間であとはないということもあるので、その中で自分のお子さんの授業参観に参加する時間から時間を「中抜け」という1日休まなくてもいい勤務体系をつくっており、午前、午後の半日休暇も取れるようして、みんなが休みやすく、抜けやすい勤務体制をつくりました。【※2】



【建通新聞社：滝氏】

秋山さんの経営者の立場から、この業界全体として今後女性の就業者を増やすためには何が必要だと思いますか

【ダイスイ設備：秋山氏】

色々な会社に就業規則で育児休暇、介護休暇とかはあると思います。ただ実際にその休暇が取得しやすい環境にあるのか、事実あるだけで使用した方がいますかとか。戻ってきて不安になるということは、やはり事例も少ないであろうし、会社も大々的にうたっていないことだと思います。私ども会社の子会社の方では育児休暇を取得して復帰している方はいますが、その間のコミュニケーションという形ではまめな情報として、今、会社はこうなっていますよとか、こういう方が新しく入社したよとか、そういうフォローが必要だと思うし、戻ってくる側も戻ってくるという気持ちを確認できます。先ほど言われたようにお子さんの顔を見れば、やはり自分で育てたいというのは親心で、働きたいという気持ちとの葛藤にはなると思います。会社側は待っている立場として、補充しないわけですから帰ってきてほしい気持ちで待っていますので、そういう間もコミュニケーションとしてやりとりをしていく必要性はあると思います。

【建通新聞社：滝氏】

結婚、出産、育児は女性にとって共通の問題です。他の方はどう思いますか。結婚をされている方は手を挙げていただけますか。

（秋山氏、飯野氏、勝又氏、瀧氏、中澤氏、西雪氏、兵頭氏、中崎氏が挙手）

みなさん、家事などはどうされているのでしょうか。兵頭さんはどうでしょうか。

【ナガエ塗装：兵頭氏】

私はちゃんとやっていますよ。（笑い）

私の場合は子供が大きくなっていて、就職もしていますので、夜の時間は遅いときもありますが、私が帰宅してから食事の支度をします。

【建通新聞社：滝氏】

分担されているという方はいますか。

【カツマタ：勝又氏】

分担ではなく、押しつけで。(笑い)

私はほとんど家事をしていません。初めの頃は家事をしていましたし、子供が小さい頃は子供を連れて会社に行っていました。会社を興してから自分の家でやっていて、事務所も家から300mくらいしか離れていませんし、娘も結婚しています。あとひとり残ってはおりますが、次はどちらかというと孫のお守りになると思います。

私の場合は主人が公務員で、泊まりはありますが、帰宅は早いので家事は一切主人に頼んでいます。(笑い)



【奥村組：西雪氏】

私も結婚する時に、仕事を続けさせてくれることが条件だったので、先に帰宅した方が食事をつくったり、私が疲れているときは朝食をつくってもらったり、お互いに支え合っていないと生活がまわっていかずに、相手も家事をやらなければならない状況なので、家事はこれから男性もやっていかなければいけない時代なんだということ結婚する前から言い聞かせていました。(笑い)

逆に皆さんにお聞きしたいのは、育児休暇を男性に取得してもらいたいと意識はどうでしょうか。最近になって”イクメン”とかいう言葉も増えてきていますが、昨日も夜に明日にはこのような懇談会に参加する話をしたら、夫に是非ともそんな話も聞いてきてくれと言われたので、実際はどうかと思ひまして、アメリカの方では二人で育児をすることは当たり前という話もありましたが、どうでしょうか。

【ナガ工塗装：兵頭氏】



私たちの世代ではそういった考えは少なかったと思いますが、息子、娘達をみてみますと、当たり前じゃないかな。男性が女性をかばうとか、女性が家事や育児をすべてやるものではないというのが今の世代の考えだと思いますので、私をそれはいいと思います。だから息子にもご飯のひとつも作れないと食いつぱぐれるよと、よく言っております。

なぜ、私がいいかと思うのは、お互いが思いやりを持てるので、良いかなと思います。主人も今になって思えば、私が忙しいときは黙ってゴミ捨てにいくように変わってきましたので、私は男性に育児休暇を取ってもらうことは賛成です。

ところで、西雪さんのご両親はどうでしたか。

【奥村組：西雪氏】

私の両親は自営業をしていて、両親はほとんど家事をしないで、祖母に育てられてきました。

私も若干は親に頼りたい気持ちもあります。最近結婚してふたりで家事をしていると、母親は” いいね、あんたは、私のときはお父さんは何もしてくれなかった” と言い、お父さんは” え～、見えないところでやっていたし” とか言っているのですが、徐々に時代が変わって友人達をみていても、料理をする男性も増えてきているし、社会自体が変わってきていることは実感します。

【弥富建設：瀧氏】

私の会社は、私と同世代の男性が多いのですが、休暇をとる理由はほとんど子供が理由です。地域が皆一緒に、運動会や授業参観とかで重なってしまうのですが、でも社長も以前から経験してきていることなので、” どうぞ、いいよ” と休暇を取ることを快く許してくれます。

【建通新聞社：滝氏】

労働時間の問題で、どうしても家に帰る時間が遅くなる方も多いと思いますが、そのことについて不安に感じている方はいらっしゃいますか。

【小原建設：壁谷氏】

今、全国的な安全週間ということで、イベントが盛り沢山ということもあり、夜遅く帰宅し、翌日は始発で出勤するという生活をしていると、とてもじゃないけど結婚は考えられないなという状況です。

【建通新聞社：滝氏】

そのような問題をこれまで乗り越えてきたという方はこの中にいらっしゃいますか。

【ナガ工塗装：中澤氏】

壁谷さんは責任感が強すぎて、夜遅く帰宅したのに明日の準備でまた早く出勤するということで、自分の仕事量が増えすぎていると思います。もしかしたら、やらなくても良いこともあるということはないですか。

【小原建設：壁谷氏】

ないと思います。

私も仕事をするのが遅いと思うので。

【ナガ工塗装：中澤氏】

この日は何時に帰る日だと決めて、その日は仕事を回し、翌日の準備もする気持ちの余裕がないと潰れてしまう心配があると思います。



【小原建設：壁谷氏】

建設業はいろいろな業者さんが携わっている仕事で、例えば今日は早く帰ると決めていても、

電気屋さんから”今日は22時くらいまでは良いですか”という急な話もあります。

【乃一塗装工業：飯野氏】

上司のあり方で随分変わるのではないのでしょうか。また、これ以上はやらないという面も見せないと、家庭との両立は難しいのではないですか。

【小原建設：壁谷氏】



今の状況では自分でも無理かなとあきらめているところもあり、内勤の方に変わりたいとも思っていて、どちらかというと資格の取得で焦っていたところもあるのですが、資格は30・40歳になってからとれば良いというような話も耳にします。

男性と女性では時間の感覚が違うとすごく感じて、確かに男性は30歳頃に資格を取得して仕事を続けてもいいかもしれませんが、女性はある程度の年齢で結婚しないと、子供も産めなくなってしまうし、いろいろ考えると27、28歳くらい迄に資格を取得し、結婚して子供を産まないと、今後は不安です。今、話を聞いているとやっている人がいるので、できるんじゃないかと思う半面、自分にできるのかと不安もあります。

【乃一塗装工業：飯野氏】

会社や上司の協力や理解があれば、随分働き方が変わってくると思います。

【小原建設：壁谷氏】

確かに協力的な方が多かったですね。しかし、なかには話をしていくと”女が何を”と思っている人も少なくないと思います。そうすると産休は取る勇気がないというか、取りづらく感じます。

【建通新聞社：滝氏】

中澤さんは育児をされている間は、一時的にお仕事はされていなかったのですね。

【ナガ工塗装：中澤氏】

そうですね。ただ、最初から仕事は続けいきたい、専業主婦になりたいとは思っていませんでした。どこかで復帰したい、同じ会社ではなくても仕事は続けていきたいと思っていました。壁谷さんは、まだ会社に入社したばかりだし、この就職難のときに、じゃあ、次という不安はあると思いますが、今の仕事をしたいと思っていて、資格を取る時間がないかもしれませんが、自分の中で資格を取っていったりしていくうちに、多少違ったりするかもしれませんが、やりたいことはしっかりとできていくと思



います。

ひとつの会社とみるのではなくて、結婚しても同じように仕事をやれる機会もあると思うので、今子供がいない時点に、授業参観どうしよう、夏休みどうしようとか起こっていない心配せずに、仕事をしていくなかで解決することもあるので、あまり心配しない方がいいと思います。私の場合は会社が小さかったので、融通が利いたかもしれませんが、20年やっていくことができたので、心配しなくても大丈夫だと思います。

【建通新聞社：滝氏】

会社、上司等の問題もあるかとは思いますが、社会全体として、こういう仕組みがあったらというものはありますか。藤森さん、何かありますか。

【矢作建設工業：藤森氏】



制度自体は最近よくなってきていると思います。私の会社の設計部では、女性の総合職が集まっている部署でもあり、先輩で育児休暇を取得して、復帰している方もおられます。制度は会社も理解してくれていると思うので、制度というよりは、風潮というか、女性は早く帰らないといけないし、そういう人には仕事を任せられないという男性の声を聞きますし、やはり、子供が理由で休んだりすることは、ちゃんと有給もあるけど、取りにくいという中で葛藤している状況も見受けられます。周りがしっかりとサポートや子供の面倒で休暇を取ることにもう少し理解してもらい、男性もそういう理由で普通に休暇が取れる環境になってほしいし、意識を変えてほしい。

は、ちゃんと有給もあるけど、取りにくいという中で葛藤している状況も見受けられます。周りがしっかりとサポートや子供の面倒で休暇を取ることにもう少し理解してもらい、男性もそういう理由で普通に休暇が取れる環境になってほしいし、意識を変えてほしい。

【建通新聞社：滝氏】

渡邊さんは、さきほど、会社に先輩がいらっしゃらないということですが、育児休暇を取得して、復帰するような風潮にしていこうという仕組みが必要だと思うことはありますか。

【横井業務店：渡邊氏】

仕組みというか、うちの会社で私より年上の女性がいなくなったのは外勤の方だけですが、時間というものもあります。現場が遠ければ、いくら仕事している時間が8時～17時でも、帰宅したら20時、21時になってしまうとか、行き帰りに時間がかかるということもある、やはり、仕事の内容的には体力的な問題もあると思います。育児休暇をとって出産だけの数ヶ月間、1年だけならまだしも、子供が小さい



うちはそばにいてあげたいというのはもちろん私もありますし、先輩たちもあったと思って、幼稚園を卒業するくらいまでとして考えたら、4年、5年も間を空けてしまうことになりますし、それで復帰することは難しいかもしれないですけど、多分、1年にしても5年にしても、それだけの間、現場を空けるとなると体力的には、次に復帰したときに技術的な面ではできた

としても、力としてついていけなくなるのではないかという不安があって、先輩たちは辞めていってしまったのかなというのがあります。やはり、藤森さんが言われたように、仕組みというよりは、周りの考え方だと思います。

【建通新聞社：滝氏】

ありがとうございました。皆さんからいろいろな意見をお聞きいただきましたが、今、働く女性が集まっている機会ですので、働く女性同士、それぞれに聞いてみたいことはありませんか。

【小原建設：壁谷氏】

先ほども話をしたのですが、私は資格がないと不安です。子供を産んで小さい頃は自分で世話したいとなれば、今の仕事を続けられるのかなと不安に感じていて、仕事を続けていくうえで、やはり資格がほしいと考えてしまいます。皆さんは資格が必要だと思われませんか。

【カツマタ：勝又氏】



私は資格をたくさん持っていますが、別に会社を經營するために資格を取ったわけではなく、先ほどの育児休暇の話ですが、育児休暇はだいたい1年くらいですよ、しかし、子育ては1年経っても終わりません。私は子供が乳飲み子の頃は働いていませんでした。結婚する前は少し働いていて、私は20歳のときに結婚してしまったので、21歳で子供を産んで、上の子供が5歳、下の子供が3歳くらいのときに、事務員として会社に入ったのですが、今は人生もすごく長いので、仕事は大事ですけど、私は少し考えが違っていて、子供をみるならば、思う存分みたいといいと思うんですよ。それから働きたければ、いつでも働きにいけないと思います。だから、継続していくとちょっとこっちに籍をおいて、こっちもやってというのが、理想なんです、なかなか難しいと思うんですよ。保育園にずっと預かってもらうとか、おじいちゃん、おばあちゃんにみてもらうか、自分が育てるか、選ばなければいけないと思います。男性の方はそういう岐路に立たされることはないかもしれませんが、やっぱり、私たちの年代は子供が小さいうちは自分でみた方がいいと思っているのです。せめて3歳くらいまでは、保育園には入れずに、自分でみた方がいいと思うので、私は勤めていたところはすぐに辞めて、結婚してすぐに妊娠してしまったので、5年くらいは専業主婦をして、それから5年くらい会社に勤めて、また5年くらいして自分で会社をすることになってしまいましたけど、その気になれば、資格はいつでも取れるんです。

私は30歳になってから、資格を片っ端から取りまして、今その資格が必要かどうか、使っていない資格もたくさんありますけど、でも、育児やっている途中でも、資格はとれると思います。別に子育てしながらでも、自分で設定して資格は取れます。今はそうやって思わないでも、子育て、結婚をとるのか、仕事をとるのか悩んでしまうと思いますが、私たちの立場からすると、3歳くらいまでは自分で育てた方がいいと思いますよ。後悔しても後から取り戻すことはできません。仕事は今、それをやっているの、それしかいかんのかと思うけど、案外そ

うではないんですよ。専業主婦の間にもっと自分に可能性が出てくるかもしれませんし、違うことに興味が出てくるかもしれません。現実にはうちの会社だったら、クレーンのオペレーターで乳飲み子を抱えていたら、仕事は無理です。それと同じで、ゼネコンさんで外勤の現場監督をしている方であつたら、子供がケガをしたら、すぐに帰れることはありませんよね。人間の感情としては、子供のことを思いながら、仕事をするならば、いっそ子供が小さいうちは育児に専念して、それは全力投球でやって、助けやら、いろんなものが見つかったら、また働いても全然遅くないと思います。結構人生は長いですから。それから、一生のうちに3年仕事をしなかったとしても、それくらいは別に遊ばしてもらってもいいのではないかと思います。私たちの年代の人は、外へなんか出してもらえなかったと思います。自営だったら、自分の子供を産んでも、仕事にいくと思うんですよ。やっぱり、ゼネコンとかは無理やと思うので、私はスパッと割り切った方がいいと思いますよ。結婚とかのチャンスは何回もくるものではないじゃないですか、仕事のチャンスは意外にあるんですよ。建設業だったら、特に3Kですから、働き手があるようでないので、大丈夫だと私は思います。

【小原建設：壁谷氏】



母親は私と全然違う仕事をしていたのですが、結婚してから仕事を辞めて、私が小学校にあがるまで仕事を休んでいて、そこから働き始めているので、私もそれでもいいかなと思ってはいるのですが、やっぱり、そうなったときに「家」が好きなので、もう一度建設業に入りたいと思っていて、再就職できるのかなとすごく不安に思っています。

会社からすると、入社して4年、5年目くらいまでは教育期間で、女性が結婚して辞める時期はちょうど、それくらいじゃないですか、産休とかずうずうしく言っていいのかなと。今まで会社に女性技術者で入社した人が2人いたのですが、体力の限界で辞めていたり、事務に移っていたりして、プレッシャーを感じています。会社側からするとどう考えていると思いますか。

【カツマタ：勝又氏】

確かに一人の人間を一人前にするには、3年以上かかりますけど、経営者側も承知で雇用していると思うので、もし、そう思っているのであれば、今は3年目でしたよね、結婚して、産休を取っても、また戻ってきたいんですよ、会社にその熱意を語ってみるとか、その時も、また試験を受ける形になると思うのですが、私の元を取りたかったら、そこから雇いなさいというアピールをしたらどうですかね。会社はそういうことを見越して人を雇っていると思いますし、大きい会社程、それほどに思っていないのではないのでしょうか。うちみたいに零細だと違いますから。やはり、入る前に男性に限定はしてはいないのですが、女性のなり手が少ないのも事実です。なかなか外に出る仕事というのは、女性には狭き門かもしれませんが、でも、本当にその時に人が欲しくて、あなたのことを前に雇用していて、知っているというのであれば、同じように採用してくれると思いますよ。それと子供を天秤にかけたら、本来子供の方

が断然に重いはずなんですけどね。私は子育ての方が断然比重は重いと思います。

【ナガエ塗装：兵頭氏】

自分の人生観は変わると思います。今はここだけで集中していると思いますが、子育てをやってみると、こういうことにチャレンジもという事も出てくると思うんですよ。だから、そこでまた新たな挑戦をしても決して遅くはないと思います。今はそんな社会ではなく、産休、育児休暇を経て復帰する方も多いので、あまり気にしない方がいいと思いますよ。そんなことを考えていたら、どんどん萎縮してしまうので、システムはシステムで使わせてもらった方がいいと思います。

【建通新聞社：滝氏】

せっかくの機会なので、その他のお聞きしたいことはありませんか。

【奥村組：西雪氏】



私も一つ言いたいことがあるのですが、私も技術で現場勤務をしてきて、同じような立場だったので、そのときに自分が結婚して、子供を産んで、ちょっとその間に産休を取ってというように考えていたのですが、やっぱり、子供は3人ほしいとかいろいろと頭の中で考えるところがあって、仕事のことと照らし合わせて考えていったときに、だいたい私の会社だと早い人は30歳くらいで所長、主任

になったりする人はいますが、自分はその時期には絶対に所長になれないなと思ったんですよ。結婚したり、子供をつくったりスローダウンさせないといけないということで、どうしよう、同期にどんどん追い抜かされていくという焦りがあったんですけど、あるときからそこは割り切って、もうそれは女性だからしょうがないと思って、例えば、同期より5年あとを歩いていく感じで、自分より5年後に入社した社員たちと同じように経験値を積んでいくようになるかもしれませんが、割り切ってやっていけばいいと思うんですね。

もうひとつ、資格ということに対しても、いつでも取得できると思いますけど、仕事をしながらでも、全然取得できると思うんですよ。こういう言い方をしたら、すごくきついかもしれませんが、自分もすごく忙しかった4年目のときに資格を取得して、勉強もしましたし、通勤時間に眠い中、テキストを読んだりとか、土日に本当は遊びたいのに、勉強のために使ったりとか、そういうこともしたので、資格は仕事が忙しかったら取得できないというものでもないと思うので、頑張ってやってもらいたいと思います。仕事が忙しいから資格は無理みたいにあまり考えずに、どちらも頑張してほしいです。

【小原建設：壁谷氏】

日曜日は学校に通い、あとの日は仕事という感じなのですが、疲れがたまっていて、起きると授業が始まっている時もあり、母親には授業料が無駄だと言われます。1年間で80万円くらいの費用がかかり、何年も続けていくとお金も貯まらないし、母親にはいいところで辞めな

さいとは言われています。

【ナガ工塗装：中澤氏】

建設業で働く女性が少ない中で、自分以上に周りの期待を感じて、プレッシャーがかかっているようで、建設業界の中で女性の立場が一番きついところだと思いますが、私も以前勤めていた建設会社で、設計で初めて女性を採用したのですが、やはり、初めてということで、もしその女性がだめだったら、あとは女性を採用しないというようなプレッシャーをかけられていて、大丈夫かなと思いましたし、1級建築士の資格を取得したのにもかかわらず、女性だから役所に書類を届けることは女性の仕事だという扱いもあり、他の業種より遅れているところだと思います。

【建通新聞社：滝氏】

そういう部分もあると思いますが、逆にこの業界で女性であることを活かせる場所はあるかなと思うところがあると思いますが

【ナガ工塗装：中澤氏】



私はあまり女性だからという意識を持って仕事をしているわけではありませんが、現場に出るとほとんど男性の方が多いですね。最初はこの人で監督ができるのということはあるかもしれませんが、現場の中で一生懸命仕事をしていれば、認めて下さるので、女性だから軽く見られるではなくて、自分なりの仕事をしていれば、同じように扱ってくれると思っているので、逆にそのような仕事をしてい

れば、女性でも充分できるじゃんと思われるのは利点だと思います。

【建通新聞社：滝氏】

様々な皆さんの悩みなどをお聞かせいただきましたが、逞しい意見もたくさん伺いまして、これから建設業界で働く女性が増えるのではないという希望も感じました。最後に一言ずつ感想をお願いしたいと思います。

【ナガ工塗装：中澤氏】

若い方々にはいろいろな可能性を考えてやっていただきたいと思います。

【ナガ工塗装：兵頭氏】

私も同じく、若い皆さんには希望があると思って頑張ってください。

【矢作建設工業：藤森氏】

私も入社して結構たって、ちょうど結婚とかを考えて、悩んだり将来のことを考えたこともありましたが、いろいろな働き方をしている皆さんの話をお伺いして、肩の荷がおりました。

【横井業務店：渡邊氏】

私もそろそろ結婚を考えてもおかしくない年齢にもなっているのですが、仕事も続けたいけど、子育てもしっかりとやりたいと思っているので、出産、育児を経験された皆さんのきっちりとした本音の意見をお伺いして、参考になりました。

【弥富建設：瀧氏】

私自身は育児中なのですが、いろいろな意見をお伺いできて良かったと思います。また、これから建設業界に入ってくる後輩たちにもアドバイスができるかなと思って、今日は良かったと思います。

【カツマタ：勝又氏】

若い女性たちには、日本の人口が減らないようにどんどん結婚して、どんどん子供を産んでほしいと思います。



【ダイスイ設備：秋山氏】

若い方々の中にはこれから結婚する方もお見えで、いますぐ決めなくても、実質自分が結婚、出産したという状況になったときに考えた方がいいと思います。今からあれこれ考えてしまうと人生は長いので疲れてしまうので、ゆっくりと考えた方がいいと思います。

【奥村組：西雪氏】

私は今日ここにくるにあたって、こんなことを話したいな、こんなこと聞きたいなといういろいろ考えてきて、それほど仕事をしていく上で、女性だからと意識して毎日仕事はしていないのですが、今回この懇談会の機会がありまして、自分を振り返ってみるいい機会であったということがありがたい機会だったと思っています。今日皆さんの話を聞いてみたら、建設業で女性が働いていますが、そんなに苦勞していないというか、苦勞と感じていなく、楽しく働いている方がいらっしゃる事が予想以上にいい印象でした。本当にこれからも、自分としては建設業の中に女性が入ってきてもいいと思っているので、今回の機会だったり、大勢の皆さんの活躍によって、これからも女性が働けるような建設業になっていけばなと思っています。

【ディビーエス：林氏】

皆さんの話をお伺いして、これからの自分のためになるいい機会だったと思います。

【小原建設：壁谷氏】

以前に中部地方整備局のインタビューを受けた時期は、仕事が楽しくて、結婚はまあいいやという感じで、イケイケゴーゴーの時期でしたが、ここ数ヶ月で仕事の状況が変わってしまって、本当に悩んで、悩んでの毎日だったので、このタイミングですごくいい機会でした。先ほ

ども言われましたが、今考えるのではなくて、とりあえず今頑張って、そのときになったら、なるようになるではないですが、やっぱり結婚、出産後も仕事を続けていらっしゃる方もおられますので、方法がないわけではないのだと自信にもなりましたし、私も頑張りたいと思います。

【乃一塗装工業：飯野氏】

今日集まった皆さんが、自分の仕事に悩んでいたりとすると、会社の方針とかそういうものが問題で、上司のあり方、上司がいかにかうまく接してくれるのか、自分とうまが合うかどうかで、全然自分の人生が変わってきてしまいます。会社が結婚を認めてくれる、出産を認めてくれる、みんなで働けるようにして下さいと伝達してくれるのが、もっと上のこういう中部地方整備局からのお仕事だと思いますので、そういうふうに、もっともっとアピールして、みんなが働きやすい環境をつくっていただきたいと思います。

【中部地方整備局：中崎氏】

既に皆様にまとめていただいた感じでしたが、一言とすることで、今日は大変ありがとうございました。最後は男女の差を超えまして、人生の先輩と後輩との相談会のようにりましたが、この企画をきっかけに同じ産業で働く女性たちが、お互いに情報交換するとか、相談したりするネットワークをつくるきっかけなどにしていただければと思っております。



少しだけ住宅政策の宣伝をさせていただければ、今後、質の高い新築住宅の供給は引き続き行っていますが、中古住宅の流通、リフォームの促進というものを車の両輪として進めていこうと考えています。女性だからどうこうというよりは、業務が一層拡大するチャンスだととらえていただきたいと思います。

話を戻しますと、少し厳しいことになるかもしれませんが、今回話をしたような仕事と結婚・出産、育児の両立というのは持っている者の悩みだと捉えられることもあると思います。仕事をなくされた方もいる、結婚もお子さんも、望んでも手にできない方もいらっしゃいます。そういう中での仕事や結婚、出産の悩みについて、不安はたくさんあると思いますが、中澤さんや秋山さんにおっしゃっていただいたように、今、心配し過ぎない、未来を悲観し過ぎない。あるいは、割り切るといふ話もありましたし、そういう気持ちも必要なのかなと思いました。勝又さんもチャンスという言葉をおっしゃいましたが、今、考えすぎずに、自分の望むものをきちんと知って、仕事も家庭も、チャンスがきたと思った時にはそのチャンスを逃さないということも重要なのかなと思いました。

少子高齢化の話を冒頭に高芝課長がお話しいたしましたが、親世代が介護が必要な年齢になってきております。少子高齢化は少子化と高齢化の両面があり、おひとりが支える高齢者の数が大変多くなって参りました。今後、男女問わず、若年層も経営者層も、中堅の方も、介護で休業するとか、短時間勤務にするとか、中抜けをするとか、そういうことに直面する機会が多

くなると思っております。すでにおっしゃっていただいておりますが、働きやすい環境を整えることは、女性だけでなく、男性も含めて建設業界全体が取り組んでいかなければいけない課題ですので、企業として今後、継続的に機能していくために、「風潮」という話もありましたが、経営者の方や上司次第、会社の体制の部分もありますので、経営者の方、会社側の意識も変えていくことが必要であると考えております。少し長くなりましたが、以上です。

【建通新聞社：滝氏】

先ほど、悩み相談とおっしゃりましたが、やはり、会社には女性の先輩がいない、相談する相手がないので今日はそういうことができるいい機会だったと思いますので、今後はこの機会を活かして、女性同士の情報交換をするネットワークを築いていくきっかけにいただければと思います。本日はありがとうございました。



前列左から（敬称略）

瀧淳子：弥富建設(株) 飯野和子：乃一塗装工業(株) 秋山しのぶ：ダイスイ設備(株) 勝又ひとみ：(有)カツマタ
中澤さとみ：ナガ工塗装(株) 兵頭直美：ナガ工塗装(株)

後列左から

滝麻友：(株)建通新聞社 林奈緒子：(株)ディピーエス 壁谷侑季：小原建設(株) 西雪美樹：(株)奥村組
藤森絵美：矢作建設工業(株) 渡邊裕子：(株)横井業務店 中崎ふじの：中部地方整備局

- ※1 弥富建設(株)は、保育士を雇い社内休憩室にて夏、冬休みをはじめ、病気時、学校閉鎖時に保育を行い、また、個々の社員の実情に応じて弾力的に制度を運用し、中小企業ならではの家庭的なケアを行う等、仕事と家庭の両立がしやすい職場環境を整えていることが評価され、「平成21年度愛知県ファミリー・フレンドリー表彰」を受賞。
- ※2 ダイスイ設備(株)は、仕事と子育ての両立のための時間休暇制度を進め、女性の採用拡大、働きやすい職場環境づくりの取組により、「平成21年度名古屋市女性の活躍推進企業」の企業認定を受けるとともに、秋山氏は、個人表彰を受賞。

弥富建設(株)並びにダイスイ設備(株)の取組については、中部地方整備局建政部建設産業課ホームページ（http://www.cbr.mlit.go.jp/kensei/info/support/pdf/2010070101_josei.pdf）において公表している「女性の活躍推進等に取り組む中部地方の建設企業に対するヒアリング結果について」のなかで紹介させていただいている。